

教育ニュース「響学 共動」 No. 6

今週の児童川柳

「空のいろ きれいな色で
平成 22 年 6 月 8 日

きもちいい」(6年生)
広島市立吉島小学校

「最後の一步を走りきれ」をスローガンにし、多くの感動を残してくれた子どもたち、子どもたちの底力・伸びしろの大きさを再認識した運動会。子どもたちも充実感がもてたようで、川柳箱には、次のような川柳が投稿されていました。「運動会 たくさんの笑顔 ありました」「最後には 笑顔が光る 運動会」など。ひたむきに練習にうち込んだ子どもたち、たくましく成長したあかしを表現した子どもたちに、「よくやったね。感動をありがとう!!!」。

支え合い、認め合い、高め合う児童一人ひとりの笑顔とひたむきさに感動!

この4日、本市立学校の先生方が集い授業研究会が、ひまわり学級2組で行われました。授業は、焼きマシュマロを調理し食した体験と思いを文章などにまとめ、他者に伝える授業です。そのなごれは、3人の児童が先生と協力しながら調理過程を確認し役割分担して調理を行い、その体験の様子と思いを児童の実態に即して先生が自作したワークシートに文章でまとめたり、話し言葉でまとめたりするものでした。



その様子は、児師が目的を共有した協同の授業。児童が他の児童の調理活動の様子に心を配り励まし、先生が努力している過程を認め合う。児童の発表に対して、他の児童と先生が努力している過程を認めることとを共有し合い、そのことへの喜びを感受し合う、まさに「響学共動」の授業。また笑顔と調理・表現へのひたむきさが絶えることのない授業でもありました。あたたかく、しっとりとしました授業の雰囲気に魅了され、参観する私たちの心をぼかぼかさせる授業でもありました。

加えて、感激・感動したことは、授業前に自教室を隅々まで清掃する3人の子どもたちの姿、学校の玄関や廊下などをきれいに掃除する他の学級・学年の子どもたちや先生方の姿とおもてなしの心でした。授業研究会を支えよう会場準備などする本校すべての先生方の姿でした。

「確かな学力を」と 複数の先生による授業が本格化

今年度、本校では5・6年生を対象に複数教員による授業を、算数や英語の授業を中心に行っています。この授業は、中学校での学習の充実をめざし、児童一人ひとりの学習の理解やつまずきの状況に対応するとともに学習欲求に応えて、確かな学力を身につけさせるために行っているものです。

5年生の算数の授業では、児童が「1メートルの重さが4.5グラムのはりがね、8.6メートルの重さは？」に取り組む。自力解決の様子を見とる2人の先生。その後、「 $8.6 \times 4.5 =$ 」(14人の児童)と「 $4.5 \times 8.6 =$ 」(11人)の式が黒板に。「どっちが正しい式になるんだろう。困ったな」と呟く2人の先生。その後、二つの式を比べ式の意味を追究する子どもたち。その問いに鉛筆をはしらせる児童、その様子を把握する先生。困っている児童に、ヒトを与える先生。その後、自分なりの解をまとめ、学級で協議へと。



黒板前で児童から説明が次々に始まる。1人の先生が説明を線分図にまとめ、もう1人の先生は児童の表情や頷きなどから理解の様子を見とり、児童の説明を補説したり図の意味を解説したりする。児童の目はますます輝き「分かるう感」が高揚し、式の意味についての納得感が高まる。その結果、多くの児童の解は「 $4.5 \times 8.6 =$ 」へと向った。これからもこのような授業の充実に努めます。